

リハビリテーション技術全書 <全一冊>

(服部一郎・細川忠義・和才嘉昭著)

日本における近代リハビリテーション医学のパイオニアである服部一郎先生及び先生が育てられたセラピスト細川忠義、和才嘉昭両先生著によるリハビリテーション技術全書は全くその素晴らしさに圧倒され襟を正して読まざるを得ない本である。九州労災病院、長尾病院と一貫して患者への愛情とリハビリテーションへの情熱で努力して来られた服部先生の集大成であり我国リハビリテーションの歴史を飾る大書である。

内容は第1節のリハビリテーション基礎論で医学的リハビリテーションの体系をつぶさに説明し、目標設定、障害の評価、リハビリテーションチームアプローチ、運営と管理に加えて入院選別病棟区分、退院処理まで含められている。米国ではリハ医が診断してでも適応を早期に決めているがそれと比較しての我国での現実的論理が展開されている。

第2節理学療法、作業療法総説、第3節一般理学療法(1)、第4節一般理学療法(2)、第5節運動療法用具、第6節運動療法補助用具、第7節運動療法は圧巻で、現在まで我国では理学療法士、作業療法士にとって適当な教科書がなかったといっても過言ではない。この書で我国における著者等の経験に基いた物理療法、運

動療法、補助具などの実際があらゆる角度より説明されていてその内容の豊富さは類をみないし、全く頭がさがる思いである。第8節作業療法における代表的種目、第9節作業療法における治療目的と治療所作では functional occupational therapy、機能的OT(身障OT)にとって適切な指導書が存在していなかったものと実際面で直ちに活用出来るよう親切的説明が加えられている。

第10節リハビリテーション実地応用論では処方、依頼書の書きかた、処方依頼書の受けかた、問題のある症例のとり扱いかた、及びリスク管理の項で医師及びPT・OTの接点、リスク管理面での協調、基本姿勢が説かれている。又病院リハビリテーション施設の建築と設備の章では経験に基いた細い面の配慮が説明されていて今後増々建設されるであろうリハビリテーション施設の企画、設計の参考になる。

第11節疾患別リハビリテーションプログラムの組みかたの中でリハビリテーション医療においてよく遭遇する内科的、整形外科的、神経内科的疾患が網羅され、頭部外傷後遺症、虚血性心臓病、末梢循環障害、呼吸器疾患など今後増々リハビリテーションの対象となるものにいかに対処

すべきかを明白に提示されている。

長年の御経験を通じて我国の現状を充分ふまえて、今日からでも実行出来るものばかりの内容にまとめあげられた著者の御努力に対しては言葉をもって報いる事は不可能である。とにかくこの書は我国リハビリテーション出版における福音書である。将来は無医村診療を決意して居られる服部先生の理念、哲学、愛情が本の中に満ち満ちている事が感じとられ新たな感激を必ず覚えられ専門書である。

今まで医師を対象とした専門書、セラピストを対象とした本はかなり出版されているが医師とセラピスト両者を対象として患者を中心としたリハビリテーションの実際を克明に説明した本はまれであったが、このリハビリテーション技術全書がそのギャップを一度に埋めて下さった感がある。

服部先生の御健康と今後の御活躍を心から御祈りし、この素晴らしい歴史に残る書を全国すべての医師、セラピストの方々が一読して下さる事を心から願うものである。

(都養育院病院リハビリテーション部長、都老人総合研究所リハビリテーション医学部長 荻島秀男)

(B5, 頁 939, ¥ 22,000, 千300)

医学書院刊